

市民を守る防災対策の取り組みを

質問

南海トラフの最終報告が公表されたが、市の地域防災計画の見直しの進捗状況は。

総務部長

具体的な被害想定の数値がまだ確定していないので、修正できない。新庁舎の整備にあわせて、若干、組織の変更の構想もあるので、今後、順次着手する予定である。

質問

女性の意見を防災対策に反映させることが必要だ。避難所での女性に配慮した取り組みは。

総務部長

避難所の女性のスペースの確保は、意見を十分に活かすレベルに達していないのが現状である。アレルギー対応の食料品は、保健師の意見を踏まえ備蓄を図っている。

質問

防災訓練の取り組みの現状は。災害はいつ起こるかわからない。いろいろな条件下で訓練も体験していく必要がある



榎本雅夫 議員

総務部長

毎年、関係機関が一堂に会して、8月の最終日に実施しており、より地域に密着した実質的な訓練が必要だと考えている。今後は、自主防災会組織を核として、広い範囲での訓練や、時間帯を変えた訓練なども必要である

質問

災害発生時には、高齢者、障がい者は、情報の手や自力での避難が困難である。

福祉部長

平成24年11月末で、要援護者は、7千131人、名簿への同意者数は4千783人である。開示同意した方を、各自主防災会などで支援してもらうために、モデル地区を手始めに、要援護者名簿の活用を地域住民と取り組んでいきたい。

質問

現在、福祉避難所の運営マニュアルの策定に努めている。



シルバー人材センターの充実を

質問

シルバー人材センターの現状と、今後の取り組みは。

福祉部長

平成25年3月31日現在、会員は267人。就業件数は、24年度3千391件。今年度は新規の受注拡大に努めているようだ。

質問

新規について、津島市では、剪定した枝葉を、粉砕、発酵して、シルバーコンポという堆肥を販売している。また、岡崎市では、おがざきシルバー支援隊が、日常生活でちょっとした困りごとを安価な費用でお手伝いをするという事業を実施しているが、見解は。

福祉部長

シルバー人材センター事務局へ伝える。